

ふらり 諏訪塾 ⑬ 彫りが良く見えたえ

石幢は茅野市安国寺近くにも一基あります。諏訪大社上社前宮の先にある安国寺山側、永閑堂墓地（別名膳棚墓地）の石幢です。形式は長沢の石幢と同じく火袋が六角で小窓の中に六地藏が入っています。竿の部分に「寛文十一年（1771）辛丑五月吉日」と刻まれ長沢の石幢の23年後に建立されました。石質は赤みを帯びたあずき色の神宮寺石ですが、六地藏が入る部分は目の粗い石が使われ、小窓の彫りが王来されていて中の六地藏の彫りの良さと相まって見えたえがあります。

同地区内の百々墓地には、道祖神的な形状で総馬形に仕上げた「舟形一石六地藏」といわれている高さ66センチ、幅33センチの碑があります。碑の上部が三角形であることから舟形を表し、その下に六地藏が

並びます。デザイン性が高く、姿形が美しいこの六地藏は石仏研究書に紹介されたそうです。この墓地は山崩れにより墓地全体が埋没した事から現地へ移されたといわれています。

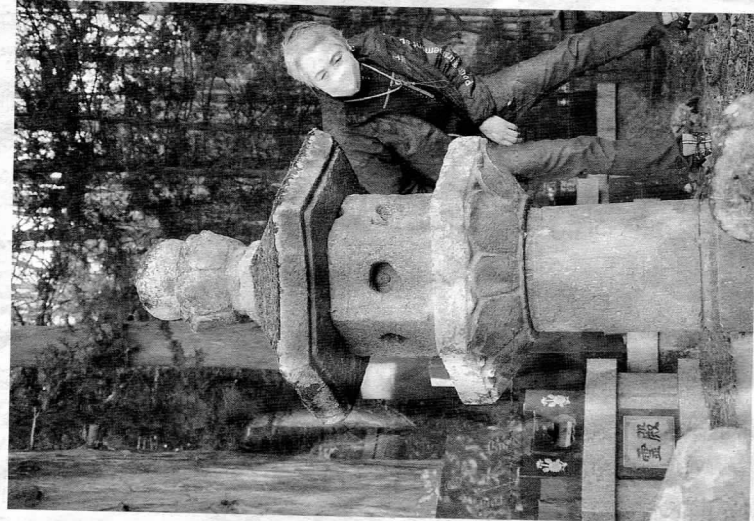
総馬形の六地藏は、諏訪市神戸地区にもあります。無量山地蔵院本堂前の石段を上がった左側に半月形（なまぼこ形）の屋根を付けた一石に六地藏と両脇に少し小さな像が一体ずつ寄り添ったように配置され、計8体の碑があります。この両脇の体は俱生神であるといわれ、インドでは冥界を司る双子の神で故人の生前の善悪を記録し閻魔大王に報告する役割を与えられている神です。高さ45センチ幅50センチの碑は「寛文元年（1662）」の建立で8体並ぶ姿は珍しく貴重な六地藏です。



石幢や一石の総馬形に刻まれた六地藏（舟形一石六地藏は建立年不明）は、ともに江戸時代前期頃に建立されています。その立ち姿は小型化されたが故に微笑ましく心が和みます。

― 随時掲載
詳しい場所などの問い合わせは
諏訪塾事務局（電話070・833・23・2107）へ。

- ・ 諏訪市観光案内所
（JRR諏訪駅内）
- ・ れすらん割烹いすみ屋
（諏訪市諏訪）
- ・ 書店「言事堂」
（諏訪市末広）
- ・ すわ大昔情報センター
（諏訪市博物館内）
で販売中です。



安国寺の永閑堂墓地（別名膳棚墓地）に建つ石幢。中にデザイン性が高く、姿形が美しい六地藏

今回の筆者



浦井みち子さん

立川流建築彫刻研究者でス
ポーツインストラクターと
しても活動しています